

先哲に聴く

大なることを欲せば小なる事を怠らず
勤むべし小積もりて大となれば也
二宮尊徳

ウソでもいいから優れた人のまねをしな
さい。まねるだけでその人は優れている

吉田兼好

至誠にして動かざる物

未だこれあらざるなり
吉田松陰

真の幸せとは、自由の中にある。
義務の甘受の中にある。

サン・ジユ・クリッペ

飯の糧にならないことが心の糧になる

藤沢周平

一善すると一悪が去る

中江藤樹

今日一日、怒らず、恐れず、悲しまず

中村天風

出来るだけ積極的な人と交わりなさい。

中村天風

教育ということは、子どもが自分の二本足
で、これからの厳しい世の中を歩き抜いて
くれる力を付ける仕事だといってもいい。

東井義雄

わくわく

府中小学校六年学年通信 第九号 六月 九日

船越準蔵さんに聴く

私は幼いころ両親から、リボンで飾った
贈り物をもらったことは一度もない。町の
食堂に連れて行ってもらったこともない。
この年齢まで無事に生きてこれたのは、親
の汗と涙のしみた贈り物を、しっかりと身
につけてもらったからにほかならぬ。
たとえば、小学校の四年生のころ、私の
母は「イヤダ、イヤダ」と抵抗する私に無
理矢理に、姉のお古の赤いマントを着せ
通学させた。生意気盛りの数年間を、私は
衆人の好奇と軽蔑の目に耐えて通学した。
大人になつて私は多数の中で自分だけが
異なる意見を持つ場面に何度も遭遇した。
そんな時、意志薄弱で妥協しそうになる
私の耳に、決まったように聞こえてくるの
は、あの何百回、何千回も言われた「みん

なと同じでなくてもよい」という母の言葉だ
った。
見を持つことを、少しも恐れなくなつて意
教育指導でも学校経営でも、右顧左眄する
ことなく、誇り高き少数派で押し通した。著
作や講演では、いまでもほかの人と同じ主張
をすることはない。
こうして、「自立・独歩」「忍耐・我慢」は、
母の執念によつて、私の「天性」となつた。
母が子に備わっていない資質を、「天性」に
なるほどに身に付けさせるのには、あれもこ
れもというわけにはいかない。この子が、周
りに人に迷惑をかけず、自分も幸せに生きる
のに最も必要なものは何かを考えて、母は私
に赤いマントを着せたのに違いない。

船越準蔵さん・・・元中学校長